

# 調査結果の概要

## 発育状態

### 1 年齢別平均値

#### (1) 身長

男子の身長は、6歳、7歳、10歳から12歳及び14歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、11歳が146.4cm、14歳が166.5cmで調査開始以来最高(過去最高と同値を含む。以下「過去最高」という。)となった。

女子の身長は、7歳、9歳、11歳、12歳及び15歳から17歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。

30年前の昭和53年度(親の世代)と比較すると、最も差がある年齢は、男子は11歳で3.7cm親の世代より高くなっている。女子では9歳で最も差が大きく、2.1cm親の世代より高くなっている。

全国平均値と比較すると、男子は5歳から15歳の各年齢で全国平均値を上回っている。女子は6歳、7歳、9歳及び12歳から17歳の各年齢で全国平均値を上回っている。

(表1、図1、統計表2)

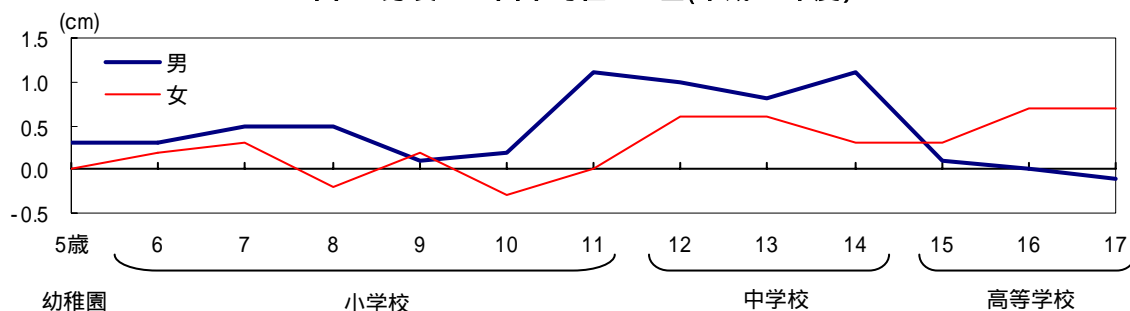
表1 年齢別身長の平均値

(単位:cm)

区分	男子						女子						
	平成20年度 A	平成19年度	昭和53年度 (親の世代) B	A-B	平成20年度 全国平均 C	A-C	平成20年度 D	平成19年度	昭和53年度 (親の世代) E	D-E	平成20年度 全国平均 F	D-F	
幼稚園 5歳	111.1	111.1	110.4	0.7	110.8	0.3	109.8	109.9	109.3	0.5	109.8	0.0	
小学校	6歳	117.0	116.8	116.2	0.8	116.7	0.3	116.0	116.1	115.1	0.9	115.8	0.2
	7歳	123.0	122.9	122.2	0.8	122.5	0.5	122.0	121.5	121.0	1.0	121.7	0.3
	8歳	128.7	128.9	126.7	2.0	128.2	0.5	127.3	127.4	125.9	1.4	127.5	0.2
	9歳	133.8	134.3	132.1	1.7	133.7	0.1	133.8	133.7	131.7	2.1	133.6	0.2
	10歳	139.1	139.0	137.8	1.3	138.9	0.2	140.0	140.1	138.1	1.9	140.3	0.3
中学校	11歳	146.4	145.4	142.7	3.7	145.3	1.1	146.8	146.7	145.0	1.8	146.8	0.0
	12歳	153.6	153.0	150.3	3.3	152.6	1.0	152.7	152.3	150.8	1.9	152.1	0.6
	13歳	160.6	160.8	158.2	2.4	159.8	0.8	155.7	155.7	154.3	1.4	155.1	0.6
高等学校	14歳	166.5	165.7	163.6	2.9	165.4	1.1	156.9	156.9	156.5	0.4	156.6	0.3
	15歳	168.4	169.6	166.8	1.6	168.3	0.1	157.6	157.5	156.0	1.6	157.3	0.3
	16歳	170.0	170.2	168.4	1.6	170.0	0.0	158.4	158.3	156.7	1.7	157.7	0.7
	17歳	170.6	171.3	169.3	1.3	170.7	0.1	158.7	158.5	156.8	1.9	158.0	0.7

注)平成20年度については調査開始(昭和23年度)以来の最高値(過去最高と同値を含む)を網掛けで示している。

図1 身長の全国平均値との差(平成20年度)



注)差は、都平均値から全国平均値を差し引いたものである。

(2) 体 重

男子の体重は、6歳、7歳、10歳から12歳、14歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、17歳が64.4kgで過去最高となった。

女子の体重は、7歳、9歳、12歳及び13歳の各年齢で前年度の同年齢より増加している。

30年前の昭和53年度(親の世代)と比較すると、最も差がある年齢は、男子は17歳で4.0kg親の世代より重くなっている。女子では12歳で最も差が大きく、2.0kg親の世代より重くなっている。

全国平均値と比較すると、男子は6歳、7歳、11歳から14歳、16歳及び17歳の各年齢で全国平均値を上回っている。女子は7歳及び13歳を除く各年齢で全国平均値を下回っている。

(表2、図2、統計表3)

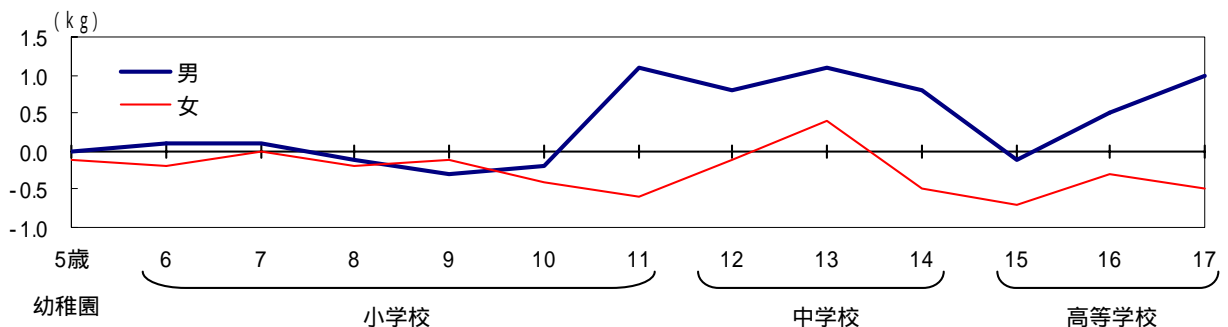
表2 年齢別体重の平均値

(単位:kg)

区 分	男 子						女 子						
	平成 20年度 A	平成 19年度	昭和53年度 (親の世代) B	A-B	平成20年度 全国平均 C	A-C	平成 20年度 D	平成 19年度	昭和53年度 (親の世代) E	D-E	平成20年度 全国平均 F	D-F	
幼稚園 5歳	19.1	19.3	19.1	0.0	19.1	0.0	18.5	18.7	18.6	0.1	18.6	0.1	
小学 校	6歳	21.6	21.5	21.0	0.6	21.5	0.1	20.8	20.9	20.3	0.5	21.0	0.2
	7歳	24.3	24.2	23.6	0.7	24.2	0.1	23.6	23.4	23.4	0.2	23.6	0.0
	8歳	27.2	27.3	25.9	1.3	27.3	0.1	26.4	26.6	25.4	1.0	26.6	0.2
	9歳	30.5	31.2	29.4	1.1	30.8	0.3	30.0	29.9	28.7	1.3	30.1	0.1
	10歳	34.1	34.0	32.3	1.8	34.3	0.2	34.0	34.0	33.0	1.0	34.4	0.4
中 学 校	11歳	39.9	39.0	36.1	3.8	38.8	1.1	38.7	39.1	37.4	1.3	39.3	0.6
	12歳	45.3	44.6	42.2	3.1	44.5	0.8	44.1	43.4	42.1	2.0	44.2	0.1
	13歳	50.6	50.7	48.2	2.4	49.5	1.1	48.1	47.5	46.8	1.3	47.7	0.4
高 等 学 校	14歳	55.7	54.5	53.2	2.5	54.9	0.8	49.9	50.1	49.4	0.5	50.4	0.5
	15歳	59.7	61.2	56.9	2.8	59.8	0.1	51.3	51.6	50.3	1.0	52.0	0.7
	16歳	62.1	62.0	59.1	3.0	61.6	0.5	52.7	53.4	51.3	1.4	53.0	0.3
	17歳	64.4	63.6	60.4	4.0	63.4	1.0	52.7	53.0	51.4	1.3	53.2	0.5

注) 平成20年度については調査開始(昭和23年度)以来の最高値(過去最高と同値を含む)を網掛けで示している。

図2 体重の全国平均値との差(平成20年度)



注) 差は、都平均値から全国平均値を差し引いたものである。

(3) 座高

男子の座高は、5歳から7歳、11歳、12歳及び14歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、11歳が78.3cm、14歳が88.6cmで過去最高となった。

女子の座高は、5歳、7歳、9歳、12歳、13歳、16歳及び17歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、17歳が86.1cmで過去最高となった。

30年前の昭和53年度(親の世代)と比較すると、最も差がある年齢は、男子は14歳で、1.9cm親の世代より高くなっている。女子では17歳で最も差が大きく、1.4cm親の世代より高くなっている。

全国平均値と比較すると、男子は5歳から8歳、11歳から14歳の各年齢で全国平均値を上回っている。女子は5歳、7歳、12歳、13歳及び15歳から17歳の各年齢で全国平均値を上回っている。

(表3、図3、統計表4)

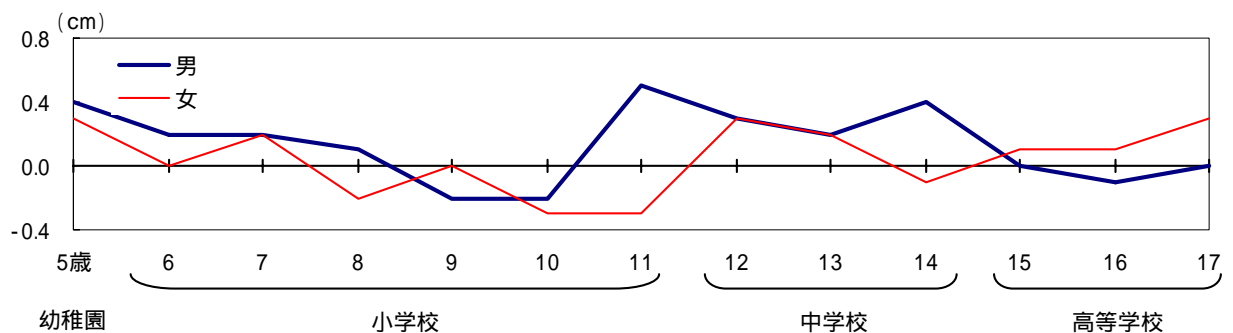
表3 年齢別座高の平均値

(単位:cm)

区分	男子						女子						
	平成20年度 A	平成19年度	昭和53年度 (親の世代) B	A-B	平成20年度 全国平均 C	A-C	平成20年度 D	平成19年度	昭和53年度 (親の世代) E	D-E	平成20年度 全国平均 F	D-F	
幼稚園 5歳	62.5	62.1	62.1	0.4	62.1	0.4	61.9	61.5	61.4	0.5	61.6	0.3	
小学校	6歳	65.2	64.8	65.1	0.1	65.0	0.2	64.6	64.6	64.5	0.1	64.6	0.0
	7歳	67.9	67.7	67.9	0.0	67.7	0.2	67.5	67.2	67.2	0.3	67.3	0.2
	8歳	70.4	70.5	69.8	0.6	70.3	0.1	69.8	70.0	69.4	0.4	70.0	0.2
	9歳	72.6	72.9	72.3	0.3	72.8	0.2	72.8	72.7	71.9	0.9	72.8	0.0
	10歳	74.8	75.1	74.2	0.6	75.0	0.2	75.7	75.8	75.0	0.7	76.0	0.3
	11歳	78.3	77.8	76.5	1.8	77.8	0.5	79.0	79.2	78.3	0.7	79.3	0.3
中学校	12歳	81.7	81.5	80.1	1.6	81.4	0.3	82.5	81.9	81.2	1.3	82.2	0.3
	13歳	85.2	85.5	84.2	1.0	85.0	0.2	84.0	83.9	83.4	0.6	83.8	0.2
	14歳	88.6	88.0	86.7	1.9	88.2	0.4	84.8	84.8	84.5	0.3	84.9	0.1
高等学校	15歳	90.2	90.7	88.8	1.4	90.2	0.0	85.5	85.5	84.4	1.1	85.4	0.1
	16歳	91.1	91.4	89.9	1.2	91.2	0.1	85.7	85.6	84.6	1.1	85.6	0.1
	17歳	91.7	92.1	90.2	1.5	91.7	0.0	86.1	86.0	84.7	1.4	85.8	0.3

注)平成20年度については調査開始(昭和23年度)以来の最高値(過去最高と同値を含む)を網掛けで示している。

図3 座高の全国平均値との差(平成20年度)



注) 差は、都平均値から全国平均値を差し引いたものである。

## 2 年間発育量

### (1) 身長

平成2年度生まれ(今年度17歳)の年間発育量をみると、最大の発育量を示す年齢は、男子は12歳、女子は10歳で最大となっており、女子の方が男子に比べ2年早くなっている。

親の世代である昭和35年度生まれ(昭和53年度17歳)と比較すると、男子では5歳から9歳、12歳で親の世代を上回っている。女子は5歳から9歳、15歳、16歳で親の世代を上回っている。

(表4、図4)

表4 平成2年度生まれと昭和35年度生まれの年間発育量の比較(身長)

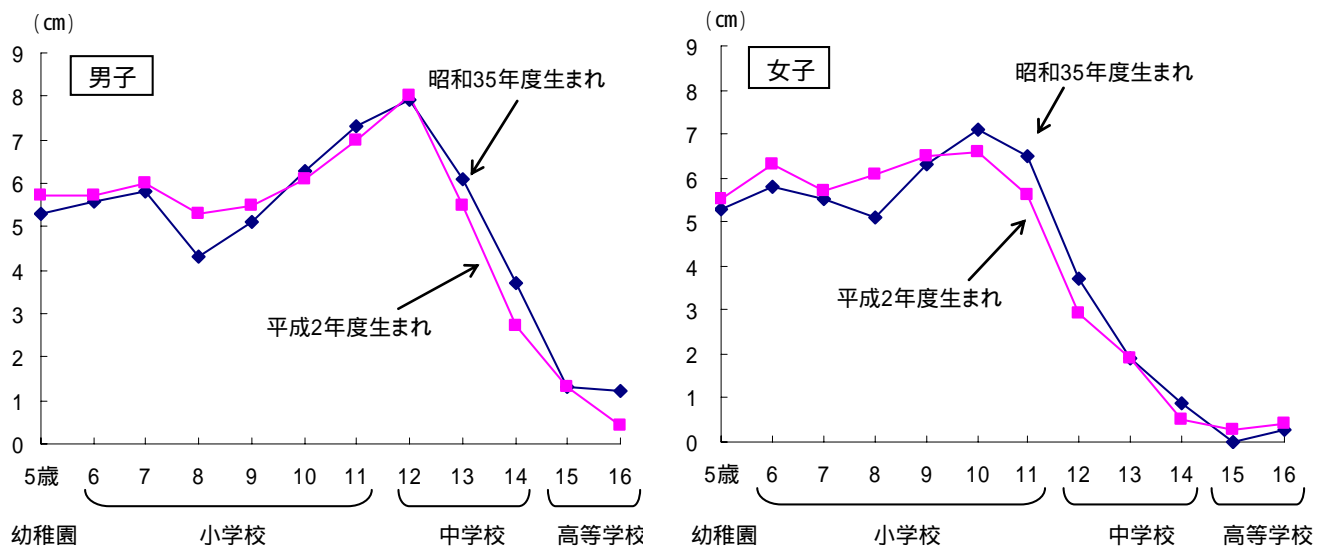
区分		男子		女子	
		平成2年度生まれ (平成20年度17歳)	昭和35年度生まれ (昭和53年度17歳)	平成2年度生まれ (平成20年度17歳)	昭和35年度生まれ (昭和53年度17歳)
幼稚園	5歳	5.7	5.3	5.5	5.3
	6歳	5.7	5.6	6.3	5.8
小学校	7歳	6.0	5.8	5.7	5.5
	8歳	5.3	4.3	6.1	5.1
	9歳	5.5	5.1	6.5	6.3
	10歳	6.1	6.3	6.6	7.1
	11歳	7.0	7.3	5.6	6.5
中学校	12歳	8.0	7.9	2.9	3.7
	13歳	5.5	6.1	1.9	1.9
	14歳	2.7	3.7	0.5	0.9
高等学校	15歳	1.3	1.3	0.3	0.0
	16歳	0.4	1.2	0.4	0.3
総発育量		59.2	59.9	48.3	48.4

注1) 年間発育量とは、例えば、平成2年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成9年度調査6歳の者の体位から平成8年度調査5歳の者の体位を差し引いたものである。

2) 網掛けの数値は、年間発育量の最大値である。

3) 昭和35年度生まれの9歳と10歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を掲載した。

図4 平成2年度生まれと昭和35年度生まれの年間発育量の比較(身長)



(2) 体 重

平成2年度生まれ(今年度17歳)の年間発育量をみると、男子は12歳、女子は11歳で最大となっている。

親の世代である昭和35年度生まれ(昭和53年度17歳)と比較すると、男子では5歳から9歳、12歳、14歳及び16歳で親の世代を上回っている。女子は5歳から8歳、13歳及び15歳で親の世代を上回っている。

(表5、図5)

表5 平成2年度生まれと昭和35年度生まれの年間発育量の比較(体重)

(単位:kg)

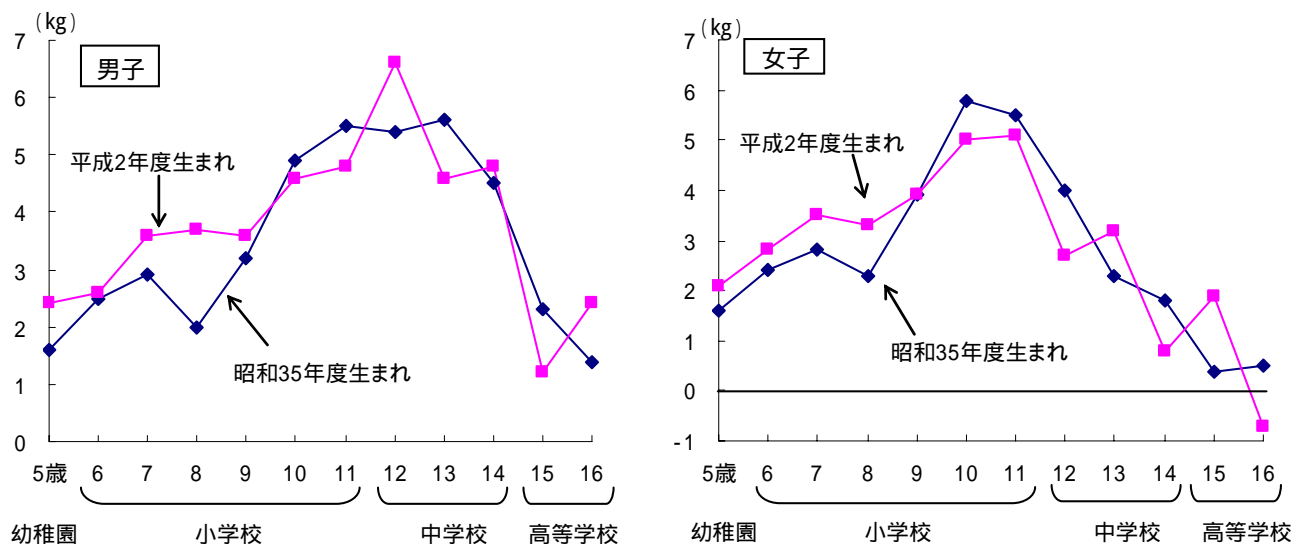
区 分	男 子		女 子		
	平成2年度生まれ (平成20年度17歳)	昭和35年度生まれ (昭和53年度17歳)	平成2年度生まれ (平成20年度17歳)	昭和35年度生まれ (昭和53年度17歳)	
幼稚園	5歳	2.4	1.6	2.1	1.6
小学校	6歳	2.6	2.5	2.8	2.4
	7歳	3.6	2.9	3.5	2.8
	8歳	3.7	2.0	3.3	2.3
	9歳	3.6	3.2	3.9	3.9
	10歳	4.6	4.9	5.0	5.8
中学校	11歳	4.8	5.5	5.1	5.5
	12歳	6.6	5.4	2.7	4.0
	13歳	4.6	5.6	3.2	2.3
高等学校	14歳	4.8	4.5	0.8	1.8
	15歳	1.2	2.3	1.9	0.4
	16歳	2.4	1.4	0.7	0.5
総発育量	44.9	41.8	33.6	33.3	

注1) 年間発育量とは、例えば、平成2年度生まれの「5歳時」の年間発育量を算出する場合、平成9年度調査6歳の者の体位から平成8年度調査5歳の者の体位を差し引いたものである。

2) 網掛けの数値は、年間発育量の最大値である。

3) 昭和35年度生まれの9歳と10歳の数値は、都道府県集計が行われなかったため、全国値を掲載した。

図5 平成2年度生まれと昭和35年度生まれの年間発育量の比較(体重)



## 健康状態

### 主な疾病・異常等の状況

疾病・異常等の状況をみると、幼稚園、小学校では「むし歯（う歯）」の者の割合が最も高く、中学校、高等学校では「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合が最も高くなっている。

（表 6、統計表 5 - 1）

表 6 主な疾病・異常等の被患率(平成20年度)

(単位:%)

区分		裸眼視力 1.0 未満の者	眼の疾病・異常	耳鼻咽喉頭			むし歯（う歯）			アトピー性皮膚炎	心電図異常	蛋白検出の者	寄生虫卵保有者	ぜん息
				耳疾患者	鼻疾・副鼻腔患	口腔患咽・喉異常	計	処完了置者	未の処あ置る歯者					
幼稚園	東京都	X	1.7	2.5	1.8	1.2	35.8	15.8	20.0	3.1	...	0.7	-	2.3
	全国	28.9	1.9	2.8	3.8	1.7	50.3	20.3	29.9	3.5	...	0.5	0.1	2.7
小学校	東京都	35.4	5.7	7.3	11.6	1.2	57.6	30.7	26.9	5.5	2.8	0.8	0.2	6.4
	全国	29.9	5.1	5.2	11.9	1.8	63.8	30.9	32.9	3.5	2.7	0.7	0.3	3.9
中学校	東京都	58.2	4.6	4.3	9.3	1.1	51.4	29.9	21.6	3.2	2.0	2.7	...	4.3
	全国	52.6	4.5	3.6	10.8	1.1	56.0	30.4	25.6	2.7	3.5	2.5	...	3.0
高等学校	東京都	64.0	5.0	3.0	13.0	0.6	61.1	34.5	26.6	3.1	2.2	2.7	...	2.9
	全国	58.0	3.7	2.0	8.8	0.6	65.5	36.0	29.5	2.3	3.1	2.8	...	1.8

注 1) 心電図異常については、6歳、12歳及び15歳のみ実施している。

2) 寄生虫卵保有者については、5歳から9歳のみ実施している。

3) 全国の数値は、小数点以下第2位を四捨五入している。

#### (1) 裸眼視力 1.0 未満

「裸眼視力 1.0 未満の者」の割合を年齢別にみると、年齢が高くなるにつれ上昇傾向となっており、13歳では 61.3% となっている。

全国と比較すると、小学校、中学校の各学校段階で全国より高くなっている。

（図 6、図 7、統計表 5 - 1）

図 6 裸眼視力 1.0 未満の者の割合 (平成20年度)

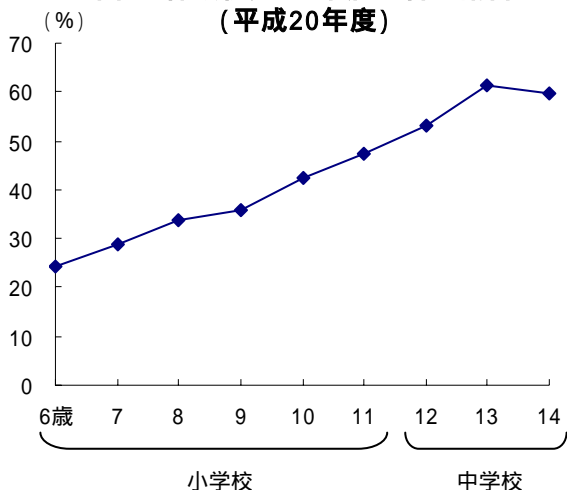
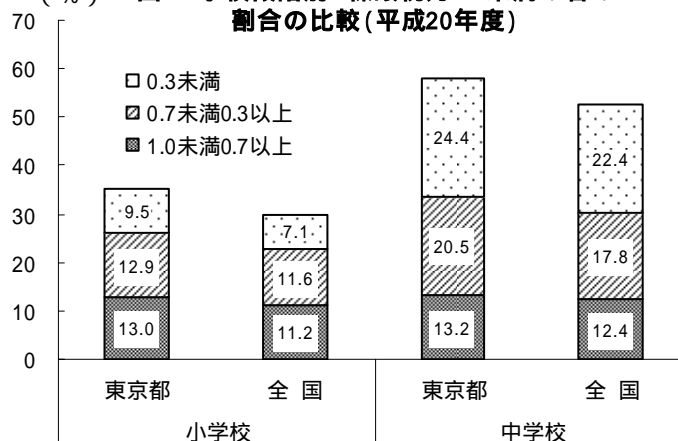


図 7 学校段階別 裸眼視力 1.0 未満の者の割合の比較 (平成20年度)



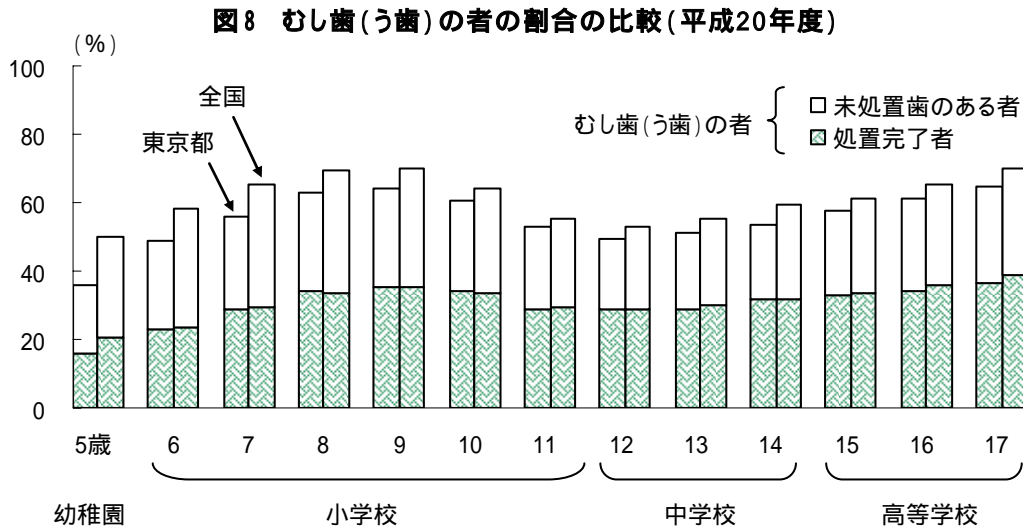
注) 全国の数値は、小数点以下第2位を四捨五入している。

(2) むし歯(う歯)

「むし歯(う歯)」の者の割合を年齢別にみると、5歳から9歳までは年齢が高くなるにつれて上昇し、10歳から12歳までは低下しているがその後は年齢が高くなるにしたがって上昇している。内訳を見ると、5歳及び6歳では「未処置歯のある者」の割合が「処置完了者」より高く、7歳以降は「処置完了者」の割合が「未処置歯のある者」より高くなっている。

「むし歯(う歯)」の者の割合を全国と比較すると、全年齢で全国より低くなっている。

(図8、統計表5-1)

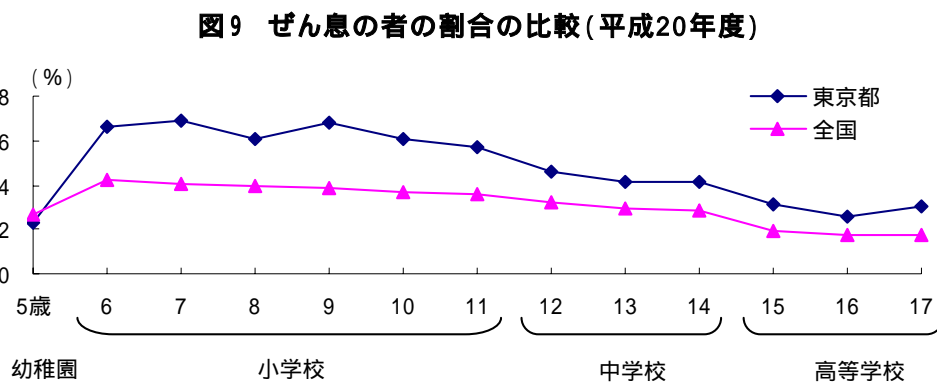


(3) ぜん息

「ぜん息」の者の割合を年齢別にみると、7歳が最も高く6.9%となっている。10歳以降は年齢が高くなるにつれて割合が低下する傾向となっている。

全国と比較すると、5歳を除く各年齢で全国より高くなっている。

(図9、統計表5-1)



## 肥満傾向児及び痩身傾向児の出現率

### 1 肥満傾向児の出現率

男子は、11歳から17歳で10%を超えており、16歳が14.49%で最も高くなっている。女子は、13歳が8.92%で最も高くなっている。

全国と比較すると、13歳及び16歳を除く各年齢で全国を下回っている。

(図10、図11、統計表6)

図10 肥満傾向児の出現率(平成20年度)

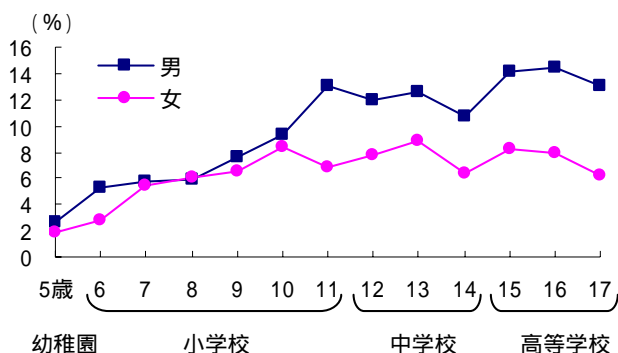
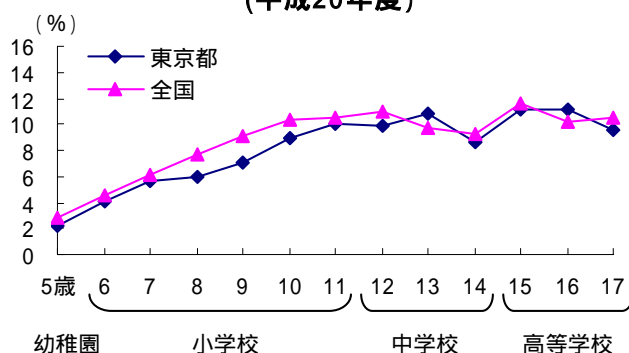


図11 肥満傾向児の出現率の比較(平成20年度)



### 2 痩身傾向児の出現率

男子は、9歳から17歳で1%を超えており、17歳が3.80%で最も高くなっている。女子は、7歳、9歳から17歳で1%を超えており、11歳が3.78%で最も高くなっている。

全国と比較すると、8歳及び15歳を除く各年齢で全国を上回っている。

(図12、図13、統計表7)

図12 痩身傾向児の出現率(平成20年度)

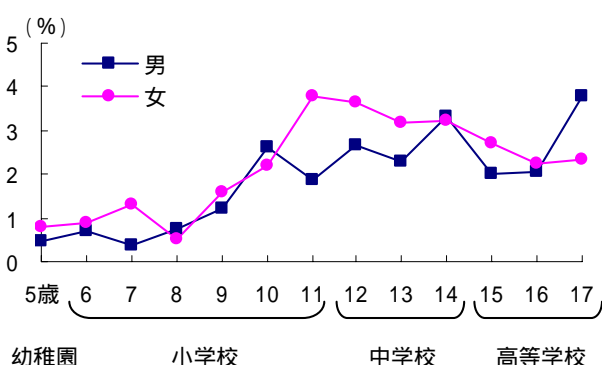
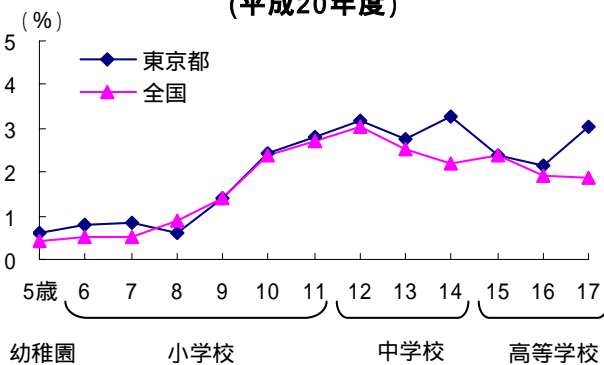


図13 痩身傾向児の出現率の比較(平成20年度)





注) 性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者を肥満傾向児、  
-20%以下の者を痩身傾向児としている。

算式は以下のとおりである。

$$\text{肥満度} = [ \text{実測体重(kg)} - \text{身長別標準体重(kg)} ] / \text{身長別標準体重(kg)} \times 100(\%)$$

$$\text{身長別標準体重(kg)} = a \times \text{実測身長(cm)} - b$$

年齢	係数	男		女	
		a	b	a	b
5歳		0.386	23.699	0.377	22.750
6歳		0.461	32.382	0.458	32.079
7歳		0.513	38.878	0.508	38.367
8歳		0.592	48.804	0.561	45.006
9歳		0.687	61.390	0.652	56.992
10歳		0.752	70.461	0.730	68.091
11歳		0.782	75.106	0.803	78.846
12歳		0.783	75.642	0.796	76.934
13歳		0.815	81.348	0.655	54.234
14歳		0.832	83.695	0.594	43.264
15歳		0.766	70.989	0.560	37.002
16歳		0.656	51.822	0.578	39.057
17歳		0.672	53.642	0.598	42.339

出典：財団法人日本学校保健会「児童生徒の健康診断マニュアル(改訂版)」平成18年